

血管内治療部

1. スタッフ（平成22年4月1日現在）

部長（教授）	根本 繁
講師	中田 学（放射線科講師）
病院講師	難波 克成
レジデント	金子 直樹（脳神経外科レジデント） 河村 洋介（脳神経外科レジデント）

2. 血管内治療部の特徴

血管内治療部は平成17年4月に新設され、平成18年3月に、最新鋭の頭部専用血管撮影装置（Philips社製Alura）、および全身用血管撮影装置（Siemens社製Axiom）を備えた現在の新しい施設に移転した。脳神経分野と全身分野から構成されている。

脳神経分野では、脳血管障害全般を対象とし、脳動脈瘤、脳動静脈奇形、脳動脈狭窄などの診断および治療を行っている。開頭術を行わずに非侵襲的に治療を行う画期的な先端医療を担っている。全身分野では、放射線科中田講師が中心となって、主に腹部臓器の血管撮影、CTガイド下生検および塞栓術、動注療法など、幅広い診断と治療を行っている。

平成19年11月には、血管内超音波装置（IVUS）が導入され、血管形成術の診断精度が向上した。

平成20年4月には栃木県で唯一の日本脳神経血管内治療学会専門医訓練施設として本学が認定された。

平成21年11月に難波克成医師が病院講師に昇進した。

認定施設

日本脳神経血管内治療学会認定専門医訓練施設

専門医

日本脳神経血管内治療学会指導医・専門医	根本 繁
日本脳神経血管内治療学会専門医	難波 克成
日本脳神経外科学会専門医	根本 繁、難波 克成
日本脳卒中学会専門医	根本 繁

3. 実績・クリニカルインディケーター

脳神経分野

脳血管撮影件数 309件

手術症例病名別件数

脳動脈瘤	28例
動静脈瘻・脳動静脈奇形	11例
血管形成術	49例
脳腫瘍	13例
総数	101例

全身分野では総数379件の検査・治療を行っており、中でも肝動脈塞栓術が273件と最も多い。

脳神経では2007年度は前年より検査・治療数ともに増加したが、2008年度は前年並みとなった。これは少ないスタッフでフル稼働しているためであるが、2009年度も、2008年度とほぼ同等の症例数である。

全身（腹部）の分野では2006年以降年を追うごとに症例数が増加しており、血管内治療の有用性が広く認識されている証であると考えられる。

4. 事業計画・来年の目標等

研究活動

平成22年2月 第18回脳神経血管内手術Winter Seminar開催。

平成22年4月 第9回日本頸部脳血管治療学会開催。

平成22年9月 第4回東京脳卒中の血管内治療セミナー開催。

臨床活動が主体であるが、平成21年8月動物実験センター開設に伴い、脳動脈瘤動物実験モデルでの研究を再開する予定である。